

エコパルなごや

夏号
Vol.119

かんきょうをたのしく学ぶ

とく しゅう
特集

いま、地球がピンチ ～どうする!? 地球温暖化～

約250年前にイギリスで始まった産業革命以降、人間はエネルギーとして石炭や石油などの化石燃料をたくさん使うようになりました。その結果、地球の平均気温は上がり続け、約170年間で約1.1℃上昇しています。(IPCC第6次評価報告書より)
さらに、近年では2024年に産業革命前と比べて約1.5℃以上高くなったとされ、地球の気温上昇は、これまで以上の速さで進んでいます。(世界気象機関(WMO)発表)

たった1℃と思うかもしれませんが、地球全体ではとても大きな変化で、暑い日がふえたり、大雨や台風が強くなったりする原因になっています。地球の平均気温が昔より上がっていることを、「地球温暖化」といい、長い時間の中で起こる気温などの変化を「気候変動」といいます。

地球温暖化は遠い国の話ではありません。いまこの瞬間も、わたしたちの住む名古屋で進んでいる「身近なピンチ」なのです。



いろいろな話題をお届けします。

とく しゅう
特集

いま、地球がピンチ ～どうする!? 地球温暖化～

エコパル
NEWS

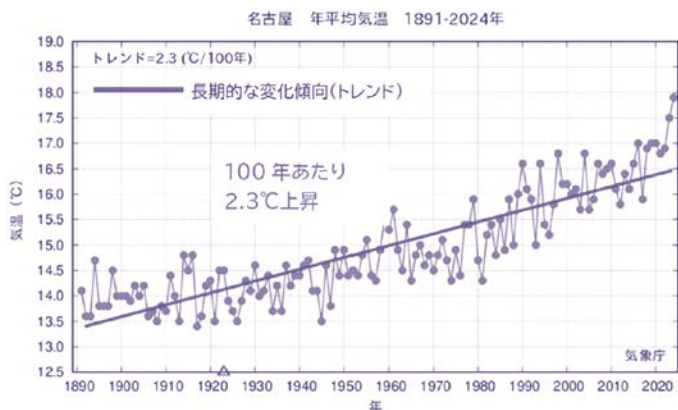
夏休みの催し、マンスリー企画展示、藤前干潟の絵本のご紹介!、
なごや環境大学、藤前干潟ふれあい事業のご案内

1. 地球はいま、どんなピンチ？

海洋や大気の大気汚染、生物多様性の損失など、地球はいくつものピンチに直面しています。中でも特に深刻なのが、地球温暖化です。気温の上昇は、猛暑や大雨をふやし、海面の上昇や生きもののすみかの変化を引きおこします。地球温暖化は、ほかの問題とも深く結びつき、地球全体に広がる大きな課題となっています。

(1) 地球温暖化ってなに？

地球温暖化とは、温室効果ガス（二酸化炭素やメタンなど）が地球をつつみこみ、熱が宇宙へ逃げのを防ぐことで地球の平均気温が上がってしまう現象です。すでに名古屋の年平均気温は1891年以降、100年あたりでおよそ2.3℃の割合で上がっています。わたしたちは気温が上がる理由を考え、できるだけ温暖化が進まないような暮らしをする必要があります。



出典：「気候変動適応情報プラットフォーム (A-PLAT)」(気象庁作成, <https://adaptation-platform.nies.go.jp/data/jma-obs/index.html>) を加工して作成

(2) どうして地球はあたたかくなっているの？

地球の気温は、地球をつつみこむ「温室効果ガス」のはたらきによって、適度な温度に保たれています。しかし、温室効果ガスがふえすぎると、熱が地球にたまり、気温が上がってしまいます。

では、なぜ温室効果ガスがふえたのでしょうか。約250年前、イギリスで産業革命がはじまり、蒸気機関が広く使われるようになりました。すると、工場でたくさんの製品をつくらせることができるようになり、人々の生活は大きく変わりました。このころから、人間は石炭や石油、天然ガスなどを大量に燃やして、電気をつくったり車を走らせたりしてきました。そのときに二酸化炭素などの温室効果ガスがたくさん発生します。また、森林が切り開かれることで、二酸化炭素を吸収する力も弱くなりました。こうした人間の活動が重なり、温室効果

ガスがふえ続け、地球温暖化が進んでいるのです。



出典：全国地球温暖化防止活動推進センターウェブサイト (<http://www.jccca.org/>)

2. 温暖化が進むとなにが起こるの？

地球温暖化が進むと、わたしたちの暮らしや自然にはさまざまな影響があらわれます。では、どのような変化が起こるのか見てみましょう。

① 暑さがきびしくなる

地球の気温が上がると、暑い日が増え、これまで経験したことのないような猛暑が続くことがあります。暑さによって、体に負担がかかり、熱中症の危険も高まります。気温上昇による農産物の生育障害、品質低下など、農作物への影響も心配されています。



② 大雨や災害が多くなる

あたたかい空気は、水分をたくさん含むため、短時間にたくさんの雨が降りやすくなります。その結果、洪水や土砂災害が起こりやすくなり、暮らしの安全がおびやかされます。一方で、雨が少なくなり、水不足に悩まされる地域も出てきます。



③ 海面(海面)が上がる

北極や南極の氷がとけ、海面が少しずつ上がっています。海に近いまちでは、高潮や浸水の心配が高まります。また、海水の温度が高くなると、いまでもとれていた魚がとれなくなるなど、漁業にも影響が出てきます。



④ 生きもののすみかが変わる

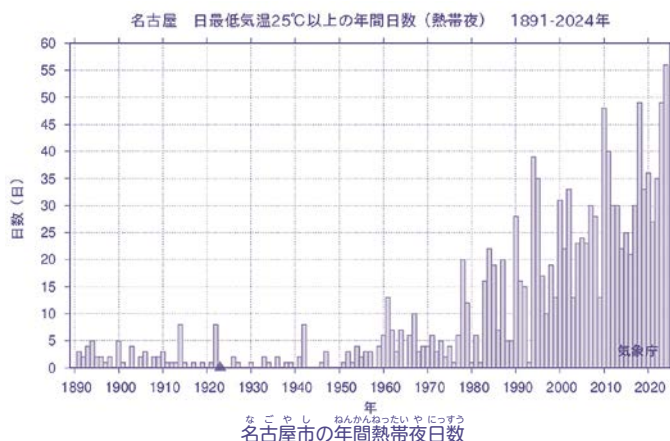
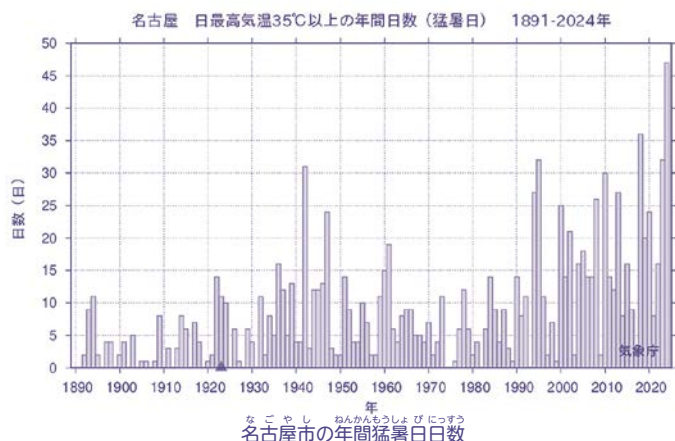
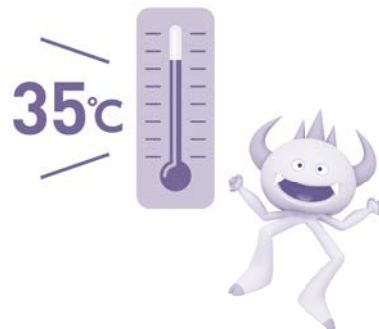
気温の変化についていけない生きものは、すみかを失ったり、数をへらしたりします。また、乾燥による森林火災がふえ、生きものたちの暮らしにも大きな影響を与えています。地球温暖化は、生きものどうしのつながりにも大きく関係しているのです。



3. 「なごや」で起きている変化

名古屋では、夏の暑さが年々きびしくなっています。たとえば、名古屋における2025年の年間の猛暑日(最高気温35℃以上の日)は52日を記録し、平年の約3倍以上になり、過去最多記録を更新しました。さらに、夜になっても気温が下がらない熱帯夜(最低気温が25℃以上の夜)もふえ、熱中症への注意がこれまで以上に必要になっています。

その原因の一つが「ヒートアイランド現象」です。都市中心部には、建物や道路、人口などが集中します。すると、昼間にたまったエアコン・自動車から排出された熱が夜になっても放出されにくく、都市中心部の気温が郊外よりも高くなります。地球温暖化による気温の上昇に加え、大都市特有の暑さが重なることで、名古屋の夏はさらにきびしくなっているのです。



出典：気象庁ウェブサイト「2024年(令和6年)の愛知県の天候：「気候変動適応情報プラットフォーム(A-PLAT)」(気象庁作成、<https://adaptation-platform.nies.go.jp/data/jma-obs/index.html>)

4. 地球温暖化を止めるために～緩和と適応～

このような地球温暖化による気候変動の影響に、わたしたちはどのように対応すればいいのでしょうか？ 地球温暖化への対策には、大きく分けて「緩和」と「適応」という二つの考え方があります。

緩和とは？

原因を少なく



「緩和」とは、地球温暖化の原因そのものをへらす取り組みです。温暖化ができるだけ進まないよう、温室効果ガスの排出をへらすことです。たとえば、つぎのような取り組みがあります。

- ・節電、省エネをおこない、エネルギーのムダづかいをへらす
- ・電気自動車などのエコカーを利用する
- ・太陽光や風力などの再生可能エネルギーを活用する
- ・森林を保全したり、植林したりして、二酸化炭素を吸収する力を高める

このような取り組みを続けることで、二酸化炭素などの温室効果ガスをへらし、温暖化の進行をゆるやかにすることができます。

適応とは？

影響に備える



一方、「適応」とは、すでに起きている温暖化の影響に備え、被害を小さくするための工夫のことです。

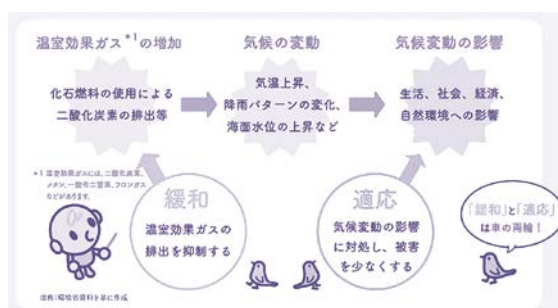
- ・熱中症警戒アラートを活用し、行動の予定をたてる
- ・学校や公共施設で暑さ対策(断熱、日よけ、冷房設備)を進める
- ・暑さに強い農作物の品種を開発し、栽培する
- ・大雨や洪水にそなえて、雨水などを貯める施設を整備する

また、名古屋のような都市では、ヒートアイランド現象をやわらげるため、緑や水辺をふやすなど自然を積極的に活かす取り組みも行われています。

地球温暖化を防ぐためには、この「緩和」と「適応」の両方を進めていくことが必要なのです。

なぜなら、どちらか一方だけでは、気候変動による被害を十分に防ぐことができないからです。たとえば、まちに木々や緑をふやす取り組みがあります。木かげができると気温が下がり、暑さをやわらげることができます。これは、暑さから人や生きものを守る「適応」の対策です。同時に、木々は空気中の二酸化炭素を吸収します。そのため、温室効果ガスを減らし、地球温暖化の進行をおさえる「緩和」にもつながります。

このように、一つの取り組みが緩和と適応の両方の役割を持つこともあります。緩和策と適応策をバランスよく進めることで、気候変動による影響や被害をおさえることができるのです。



出典：気候変動適応情報プラットフォーム (A-PLAT)「気候変動影響と対策」

5. みんなの小さな行動が地球をすくう～できることからやってみよう～

これまでに紹介したように、地球温暖化への対策には、「緩和」と「適応」があります。ここでは、その考え方をもとに、わたしたちの毎日の生活の中でできる行動を紹介します。できることから一つずつ始めてみましょう。

【緩和】地球をこれ以上あたためないために

- ☐ 使っていない部屋の照明や家電の電源はこまめに切る
- ☐ 夏は28℃、冬は20℃になるようエアコン温度を設定する
- ☐ 移動するときはできるだけ徒歩、自転車または公共交通機関を利用する
- ☐ 不要になったものは、再利用やリサイクルをして、ごみをへらす
- ☐ 家でも外食でも食べ残しをしないようにする



【適応】進む暑さや大雨に備える

- ☐ 暑い日はこまめに水分をとる
- ☐ 外に出るときは日傘や帽子を利用する
- ☐ 暑い日はエアコンをじょうずに使う
- ☐ 感染症予防のため、虫さされに注意する
- ☐ 大雨や台風に備え、避難場所や行動を家族で確認しておく



地球温暖化は、いまを生きるわたしたち一人ひとりの問題です。まち全体で取り組むことはもちろん、自分自身でできることを続けていくことが、これからの地球を守ることにつながります。一人ひとりの小さな行動が集まることで、未来の地球をピンチから救う大きな力になるのです。

コラム もっとも暑かった年ランキング＝名古屋

名古屋における年平均気温の高かったランキング（上位10位）です。近年の温暖化傾向を反映し、上位のほとんどが2010年代以降の記録となっています。

名古屋の年平均気温（高い順）

順位	年平均気温	年
1位	17.9℃	2024年
2位	17.5℃	2025年、2023年
4位	17.0℃	2020年、2019年、2016年
7位	16.9℃	2022年、2018年
9位	16.8℃	2021年、2004年

出典：気象庁ウェブサイト「観測史上1～10位の値（名古屋）」



1 楽しい！環境絵本と紙芝居の読み聞かせ

無料

日時 7月25日（土）10：00～11：05
対象 3歳～小学3年生と保護者
定員 60名
講師 JPIC読書アドバイザー 山村 真午 氏はじめ「読み聞かせグループ チームうまそう」のみなさん



2 くうきをよくする 発明家になろう！

無料

日時 8月8日（土）①11：00～12：00
 ②13：00～14：00 ③15：00～16：00
対象 4歳以上の方と保護者 **定員** 各回12組



申込方法

①②とも7月11日（土）
 午前9時30分～受付開始



他にも様々な特別ワークショップ等を開催します。くわしくはウェブサイトをチェックしてね！→



マンスリー企画展示

7月
テーマ

地球に還る、やさしいカタチ。KAELOOPタンブラーのご紹介

出展者

アサヒユアス株式会社

内容

私たちは商品・サービスそのものが環境・社会に対するプラスの価値を創出することで、持続可能な未来へのバトンをつなぐ会社です。“今の時代に合ったカタチってなんだろう？”私たちが出した答えは“地球に還る、やさしいカタチ”でした。海や自然に還る、でも毎日使いたくなるような「KAELOOPタンブラー」をご紹介します。

8月
テーマ

気泡緩衝材「プチプチ®」の水平リサイクル

出展者

川上産業株式会社

内容

身近な緩衝材として知られている「プチプチ®」は集めて工場へ運び、材料に戻して再びプチプチとして生まれ変わります。プチプチを集めるために取り組んでいることをわかりやすく展示しています。展示コーナーには「プチプチを集める箱」を置いています。ご自宅にプチプチがありましたら期間中にぜひ持ってきてください。

9月
テーマ

使われなくなった家電はどうなるの？

出展者

グリーンサイクル株式会社

内容

一般家庭や事務所から排出された家電製品（エアコン、テレビ（ブラウン管、液晶・プラズマ）、冷蔵庫・冷凍庫、洗濯機・衣類乾燥機）から有用な部分や材料をリサイクルし、廃棄物を減量するとともに資源の有効利用を推進するための説明をします。

藤前干潟の絵本のご紹介！

藤前干潟の魅力がたっぷり詰まった絵本ができました！

藤前干潟の歴史を紹介した「藤前干潟ってどんなところ？」と渡り鳥が多く訪れる「藤前干潟の春の様子を見てみよう」の2つのストーリーが両面からそれぞれ始まる楽しい1冊となっています。

エコパなごやと名古屋市野鳥観察館において1冊1,500円で販売しています。





なごや環境大学

夏休みの思い出づくりや宿題にもお役立ち！
共育講座2026前期 開催中

なごや環境大学では誰でも気軽に参加できる共育講座を開催中。7つの分野に分かれているから興味ある講座がきっと見つかりますよ。少し気になるけど難しそうと感じる人から詳しい博士みたいな人まで、ぜひ講座に参加してみてください。新しい発見に出会えます。
共育講座はガイドブックやウェブサイトで紹介しています。気になる講座を探してみよう。

「なごや環境大学」実行委員会事務局（エコパルなごや内）

〒460-0008 名古屋市中区栄1-23-13 伏見ライフプラザ13階（月曜日定休）

TEL&FAX：052-223-1223 / E-mail：jimu@n-kd.jp / HP：https://www.n-kd.jp

ウェブサイトは
こちらから→



藤前干潟ふれあい事業のご案内



(1) 「ひがたにくるトリ、どんなトリ？」

日時	①7月28日（火）10：00～12：00
	②7月29日（水）10：00～12：00
	③8月6日（木）10：00～12：00
対象	小学1～3年生（保護者同伴）
定員	各30名（保護者含む、抽選）

締切 各日とも7月20日（月・祝）

講師 Cha Chatto氏

内容 楽しいトリのお話と野鳥観察をした後に、カモのミニ模型の色ぬりをしよう！

会場

名古屋市野鳥観察館・
稲永ビジターセンター
（港区野跡4-11-2）
あおなみ線「野跡」駅または市バス「野跡駅」バス停下車徒歩15分。駐車場有。

(2) 「干潟を音であそぼ！」

日時	8月1日（土）10：00～12：00
対象	どなたでも（小学生以下は保護者同伴）
定員	20名（抽選）

締切 7月20日（月・祝）

講師 本多“taco-bow”正典氏、本多洋子氏
内容 タイコをたたいて、おどって藤前干潟を音で楽しもう！皆でバードコールも作るよ！

会場

稲永ビジターセンター
（港区野跡4-11-2）
あおなみ線「野跡」駅または市バス「野跡駅」バス停下車徒歩15分。駐車場有。

(3) 「Instagram公式アカウントをフォローして藤前干潟や環境学習施設に行こう！」

日時	7月18日（土）～8月30日（日）
対象	どなたでも

内容 藤前干潟ふれあい事業Instagram公式アカウントのフォロー画面を施設のスタッフに見せてくださった方に藤前干潟の生きもののステッカーをプレゼント！

実施会場	(1) 名古屋市野鳥観察館
	(2) 稲永ビジターセンター（港区野跡4-11-2）あおなみ線「野跡」駅下車徒歩15分。駐車場有。
	(3) 藤前干潟活動センター（名古屋市港区藤前2-202）
	(4) 名古屋市環境学習センターエコパルなごや（中区栄1-23-13伏見ライフプラザ13階）地下鉄「伏見駅」下車徒歩8分。駐車場無。

申込先：名古屋市ウェブサイトをご覧ください。

問合せ先：藤前干潟ふれあい事業実行委員会（エコパルなごや内）

〒460-0008 名古屋市中区栄1-23-13 伏見ライフプラザ13階

TEL：052-223-1067 / FAX：052-223-4199

メール：a2662@kankyokyoku.city.nagoya.lg.jp



名古屋市ウェブサイト

Instagramも
チェックしてね！▶



名古屋市環境学習センター エコパルなごや

申込・問合せ先

TEL：052-223-1066 FAX：052-223-4199

https://www.kankyo-net.city.nagoya.jp/ecopal/

E-mail：a2231066@kankyokyoku.city.nagoya.lg.jp

〒460-0008 名古屋市中区栄一丁目23番13号
伏見ライフプラザ13階

地下鉄東山線・鶴舞線の伏見駅「6番出口」徒歩7分

■開館時間／午前9時30分～午後5時 ■入館料／無料

■休館日／毎週月曜日 祝日の場合はその翌平日

年末年始 12月29日～1月3日

エコパルなごや



（消防署があるビル13階）

